したものである。

東大にある相馬孟胤採集の標本がタイプであるが産地の記入がない。緒方正資 VII 20, '36 は葉 1 枚であるが，これも自生地が記してない。但しその株とつながる可能性のある株が東大の温室に植えられていてそれを標本にした山崎敬 III 1, '65 (9492) が 2 枚あるがこれも産地がわからない。幸にこの生品が現存しているので生の状態で検することができた。今回標本を借用した台湾大学の標本を再検討して今まで不明であったものの中から若干の標本を同定することができた。それによると，北は大武山から南はヒーラン山までの山地で，台湾では最も南部地方に分布する種であることがわかった。

国立台湾大学並びに今回訪問して標本を検定することのできた台北林業試験場及び進化生物学研究所にある標本の自生地は下記の通りである。

台東県タリリク社（佐々木舜一 II 10 '25 (041356), II 25 '25 (041345), 同所（林試 30698-9))

台東県出水坡（佐々木舜一 III 7 '32 (041346), III 22 '32 (041349))

台東県追分-見晴シ（細川隆英 VIII 19 '32 (041319))

高雄県武威山（松田英二 XII 20 '18 (8780)（林試))

屏東県大武山（松田英二 I 4 '21 (8788)（林試))

〃　獅子郷寿卡（前川文夫・湯浅浩史 III 13 '77（進化研))

〃　満州郷南仁山（恒春ヒーラン山)（佐々木舜一 III 27 '32 (041344, 041355))

考えてみると今メキシコに居られる松田英二氏がすでに早く大武山と武威山とで採集して居られるのにおどろくと共に深い敬意を払うものである。なお今回採集に当って種々御援助をえた何豊吉氏並びに瀬川弥太郎両氏に謝意を表する。

○シロバナヨツバシオガマの学名訂正（堀井雄治郎）Yujiro HORII: Correction of the name for a form of *Pedicularis*

先に発表したシロバナヨツバシオガマの学名は，シロバナエゾノヨツバシオガマに同じ epithet が既に用いられているので無効であるというご指摘を受けました。不注意をお詫びして次のとおり訂正します。

Pedicularis chamissonis Stev. var. *japonica* Maxim. forma **leucantha** Horii, nom. nov.

P. chamissonis var. *japonica* f. *albiflora* Horii in Journ. Jap. Bot. **52**(2): 49 (1977); non *P. chamissonis* var. *maximowiczii* f. *albiflora* Tatewaki.

ご注意くださった原寛博士ならびにいろいろご指導いただいた金井弘夫博士に厚く御礼申し上げます。

（秋田県立船川水産高等学校）